

多様な課題に挑戦する教育経営事例の収集と検討2

学校再編プロセスをめぐる実践事例の論文化

(紀要第62号掲載論文)「地域発展につながる学校再編実現の組織化プロセス」を手掛かりとして

報告者 佐々木浩彦(下田市立下田東中学校), 武井敦史(静岡大学)

コーディネーター 高谷哲也(鹿児島大学)

日時: 2022年4月16日(土) 13:30~16:30

場所: オンライン開催(公開)

今期実践推進委員会では、本学会が扱っている「教育経営の実践事例」について、これまで以上に視野を広げて探索し、同時にその「良い報告の仕方 (good report of practice)」とはどのようなものなのかを検討することをミッションとして活動を始めています。

昨年12月の第1回研究会では、全国の学校で課題となっているデジタル化、ICTを活用した教育活動の推進について先進的に取り組まれてきた姫路市立豊富小中学校から、実践の経過、現時点での成果と課題、今後の経営計画などについてご報告いただきました。

第2回研究会では、「良い報告の仕方 (good report of practice)」の探求を視野に入れて、(むしろその点に重点を置いて)、すでに本学会紀要に発表されている<教育経営の実践事例>論文執筆者にご登壇いただき、論文化された実践事例そのものご報告をいただくとともに、論文化するプロセスでどのようなことに思いをめぐらせたのかについてざっくばらんにお話しいただき、参加者の皆様と実践を事例として論文化することの意義や難しさ、そのための手続きなどをめぐる意見交換をしたいと思います。

参加費無料で、どなたでも参加できます。4月14日(木)までに、下記、参加申し込みフォームよりお申し込み下さい。

プログラム

1. 趣旨説明(「良い報告の仕方 (good report of practice)」の探求について)
2. 佐々木浩彦氏, 武井敦史氏による事例報告
休憩
3. ディスカッション1: 実践事例の教育経営的価値、事例の「その後」について
休憩
4. ディスカッション2: 実践事例を論文化することの意義や難しさについて

問い合わせ先: 日本教育経営学会実践推進委員会(石崎ちひろ) ishizakc@tokiwa.ac.jp

フォーム・QRコードはこちら <https://forms.gle/ZF6u4Y588Wh2Mik8A>

※紀要第62号(2020年)の当該論文をご一読の上でご参加ください。

